

第8回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会記録

日 時： 平成3年2月9日
場 所： 厚生連高岡病院
地域医療研修室

第8回の研究発表会は、平成3年2月9日、厚生連高岡病院にて、発表演題10題、参加約70名でおこなわれ、活発な討論がおこなわれました。

なお、発表演題名は下記の通りです。

〈プログラム〉

1. 会長挨拶 (13:40~13:45)
2. 会員発表 (13:45~ 発表時間10分 討論5分)

座長 厚生連滑川病院院長 小川忠邦 (13:45~15:05)

1. 考察：プライマリーケアとターミナルケア (15分, 5分)

富山県農村医学研究会 ○越山健二

2. ゆたかな緑を次代へ

—高岡市における「緑の調査」結果—

高岡市農協青年部 ○西島恒雄 北 敏春 他青年部一同

富山県農村医学研究会 大浦栄次 豊田文一

3. 富山県における空中花粉飛散状況

富山医薬大・医・公衆衛生 ○寺西秀豊 劔田幸子 加藤輝隆 加須屋実

富山県農村医学研究会 大浦栄次

4. 戸出球根球根農家における健康管理活動

—特に高血圧予防教室を試みて—

富山県厚生連健康管理課 ○中村春枝

厚生連高岡総合検診センター 橋爪信子

5. 農村における癌検診受診の実態

—入善地区における調査より—

厚生連滑川総合検診センター ○永田隆恵 岡本由美子

入善町農協 金山美寿子 清水由美子 金山寿子 長田弘子

富山県農村医学研究会 大浦栄次

座長 厚生連高岡病院院長 龍沢俊彦 (15:05~16:05)

6. 富山県東部における老人健康診査結果の地域比較

日本健康倶楽部 ○椎名幸子 中川秀幸 東森幸子 井上知康

立山町 森川安喜子 布目正子
宇奈月町 中島妙子
入善町 大角美恵子 野坂真澄

7. 胃癌検診の成績と問題点

厚生連滑川総合検診センター ○小川忠邦 川口京子 松井規子 岸 宏栄
永田隆恵 保井陽子 砂田誠一郎 谷川秀明
放射線技師一同

8. 8ヶ月間に厚生連高岡総合健診センターで発見された癌

厚生連高岡総合検診センター ○棚辺寿美枝 検診センタースタッフ一同

9. 人間ドック受診者におけるTSH測定の意義について

厚生連滑川総合検診センター ○松井規子 小川忠邦 大浦栄次 川口京子
永田隆恵 保井陽子 岸 宏栄 谷川秀明
南喜代美 砂田誠一郎

10. バリウム排泄に関与する下剤と水分の効果について

—巡回胃癌検診後のアンケート結果より—

厚生連高岡総合検診センター ○山岸律子 森内尋子 橋爪信子 四日栄市

3. 閉会 (16:05)

第21回 通常 総会 記録

日時 平成2年6月9日 午後1時30分～
場所 富 山 県 農 協 会 館

I. 総会議事の概要

会 員 総 数 253名 うち出席者76名 委任状160名

会 長 挨拶 豊田文一

議 長 選 出 厚生連本所 清水忠夫

議事録署名者 富山市 柳井道之

滑川市 石倉俊宣

書 記 橋本賢治 高木 茂

議 事

第1号議案 平成元年度事業報告書、財産目録、収支決算報告承認について

第2号議案 平成2年度事業計画及び収支予算案承認について

第3号議案 役員の一部改選について

第4号議案 顧問の一部承認について

井波町了泉寺住職 武種 異師

演 題 「どう生きる 一人のいのちと動物のいのち」

II. 平成元年度事業報告書

(平成元年4月1日～平成2年3月31日)

I. 事業の概況

平成元年度事業の終了に当り、事業の概況について報告致します。

本会が設立されてより20年、この間、日本農業は著しい変貌をとげてまいりました。20年前、県内の稲作に使用される動力機械は耕耘機、脱穀機、耙耨機程度でしたが、その後、自脱型コンバイン、トラクター、田植機、乾燥機等が普及し、さらに新たな化学肥料や殺虫・殺菌剤、効果的な水田除草剤等の開発により、農業のスタイル自体が著しく変貌をしてきております。

このような農業の機械化や新たな化学物質の投入により、稲作10a当りに要する農作業時間は昭和44年の136.2時間から、昭和63年の45.8時間へとこの20年間に約3分の1へと短縮しました。これにより、過去の「かがまり」労働等の肉体労働から解放され、農業従事者の健康状態の改善に大きな役割を果たしたと考えられます。

しかし、一方で農業機械による災害事故や農薬中毒など農業の「近代化」に伴う問題や、兼業による労働負担の過重等新たな健康問題も生じております。さらに、高齢化社会を迎えるに当り、高齢者の単なる身体的健康問題のみならず、精神的健康を維持する課題も大きくなってきております。

一方、今日の「米過剰」を契機に減反、転作等日本農業にとって未経験な問題に直面してきております。特に、昭和62年度より始まった水田農業確立対策事業の開始により、転作面積は急速に拡大し、これまで、長年にわたり築いてきた農作業体系や生活習慣が崩れ、不規則な生活を強いられることによる健康問題も生じてきております。

本会では、健康で豊かな農村を築くため、以上の課題解決のために会員のみなさんと共に、これらの問題について研究調査を続けてまいりました。

昭和45年以来行っております農業機械災害事故調査、また、昭和55年以降実施しています農業機械以外による災害事故調査について今年度も継続して実施してまいりました。特に、本年度は、一次調査にて農業災害事故の概数把握に努めたところ、これまでの詳細報告数の数倍の事故が発生している事も明らかになりました。昭和55年以来実施している農薬中毒の臨床例調査も継続して実施しましたが、依然としてパラコート中毒が多く発生しております。また、農薬取り扱い者の意識調査では、農薬に対する初歩的知識にも欠ける者が多数を占めていることが明らかになり、今後とも、災害事故防止、農薬中毒防止の努力が必要であります。

請負耕作により水稲栽培面積が5ha以上の者の農薬散布前後の尿中農薬代謝産物及び健康調査を実施したところ、防護の有無にかかわらず農薬散布量に比例して、健康影響が認められ、今後さらに有効な防護について検討する必要があることが明らかになりました。また、大豆の脱穀作業に伴う粉塵調査では、作業者の顔面付近に最も粉塵が集中していることが明らかになり、今後作業者の健康調査も必要であると考えられます。その他、富山県内の空中花粉調査も農協組織等と協力的に継続的に実施しております。

農村における健康状態の把握についても引き続き行なっております。農村検診センターにおける農村地域の健康状態の把握、高岡市農協太田支所管内で実施した、健康カレンダーによる健康状態の把握や万歩計による歩行調査など農村地域における健康問題の解明のために各種の健康調査を実施してまいりました。

なお、農薬中毒に関する調査は厚生科学研究の一部としても実施しました。

これらの研究成果は、第38回日本農村医学会や第7回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会等の各種学会や本会会誌等で発表しています。

以上、本会の活動は医療関係者はもとより行政、農協、及びあらゆる職域の方々の協力により実施されてまいりました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでまいりたいと思っておりますので、会員各位の絶大なるご協力をお願い致します。

最後に、県当局、農協各連より絶大なるご援助をいただいておりますことに対して厚くお礼申し上げます。

II. 主な事業項目の概要

I. 総会（平成元年6月3日、富山県農協会館）

①議事

- ・昭和63年度事業報告、収支決算承認・平成元年度事業計画、収支予算案承認・役員改選について、顧問の承認について

②特別講演

- | | | |
|----|--------------|-------|
| 講師 | 富山県立技術短期大学教授 | 北林吉弘氏 |
| 演題 | 「農村空間の変貌」 | |

II. 研究調査活動

(1) 農業災害に関する調査研究

① 富山県における農業機械災害事故調査

昭和45年より実施している農業災害事故調査を県内全ての整形外科，外科，接骨院，717ヶ所を対象に実施した。特に，今年度は一次調査として災害事故例の有無について調査し，「症例有り」との回答があった医療機関に詳細報告を求めた。

その結果，一次調査の回収率は58%であり，症例数は238件であったが，詳細報告が寄せられたのは75件であった。最も多かったのはコンバインであり，ついで草刈機であった。症例数は，減少しているとも考えられるが，草刈機等誰でもが，何時でも使用できる機械による事故比率が高くなっており今後とも安全使用について啓蒙する必要があると考えられた。

② 富山県における農業機械以外の農業災害事故調査

昭和55年より行なっている標記調査について，前記と同様一次調査，詳細調査を行なった。

その結果，一次調査では約500件の報告があったが，詳細報告のあったのは150件であった。受傷年令は高齢者が多く，かつ重いものをもつての挫傷等が多かった。今後，農業従事者の高齢化が進むにつれ，さらに問題になると考えられ，作業改善や集団営農等による共同作業等により，身体負荷の軽減方策について検討を要すると考えられた。

(2) 農薬中毒に関する調査研究

① 富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解明

昭和55年より県内の内科，外科，小児科，眼科，皮膚科を標榜する医療機関全てを対象に農薬中毒の臨床例の有無を調査してきた。本年度も同様の方法にて一次調査として，農薬中毒臨床例の有無の調査を行い，「症例有り」と回答のあった医療機関に詳細報告を求めた。

その結果，対象663医療機関中465医療機関より回答があり，回収率は70.1%であった。このうちパラコート中毒例17例，それ以外が15例あった。これらの医療機関にさらに詳細報告を求めた。

詳細報告事例では，昭和61年度に販売が既に停止されたグラモキシソンによる症例や，パラコート濃度を低減したブリグロックスLによる症例も報告され，今後とも農薬の保管管理についての啓蒙教育が必要と考えられた。

② 農薬取り扱い者の農薬に対する意識調査

農薬取り扱い者を対象に，パラコート剤の使用の有無及び，パラコートを含む農薬（商品名）の使用の有無，農薬保管状況等について約100名について調査した。その結果，パラコート剤と農薬名の一致しない者が半数以上あり，昭和61年度に調査した結果と殆ど変わらず，今後とも農薬毒性の初歩的知識の普及や農薬中毒の予防対策をさらに強化する必要があると考えられた。

③ 水田農薬散布者の尿中農薬代謝物，血中農薬の分析及び健康調査

請負耕作により大面積の稲作栽培を行なう者12名を対象に，有機リン剤散布直前，直後，4～5日後，4ヶ月後の尿中農薬代謝物，血中農薬，及び血清の生化学検査を実施した。

その結果，農薬散布時のマスク等の防護状況とは関係なく，農薬散布量に比例して，尿中代謝物であるDMT，DMTPが排泄された。また，その量は，農薬量及び散布直前後のコリンエステラーゼの活性値の低下割合に比例していた。

一方，血中農薬量と直接関連する因子は見い出せなかった。

以上のことより、今後農薬散布時の農薬暴露量の推定には尿中代謝物の測定が極めて有効であること、また、防護の内容にかかわらず散布量に比例してコリンエステラーゼが低下したことより、さらに嚴重で、かつ快適な防護法の開発が必要と考えられた。

(3) 大豆脱穀粉塵に関する調査研究

水田面積の拡大に伴い、大豆の栽培面積が増加している。特に、請負耕作者の大豆栽培面積は、これまでの数倍から10数倍に拡大している。

ところで、県内で一般に普及しているビーンスレッシャーによる大豆脱穀では、鞘表面の「毛茸」と呼ばれる針状の毛が粉塵として舞い上がる。そのため大豆脱穀作業従事者の中には、眼が痛くなる、赤くなる、涙が出るなどの眼科的症状や咳が出る、息苦しい等の呼吸器系の症状を訴える者もいる。

今回、作業中の粉塵の飛散状況について調査し、作業改善の方途について検討した。また、一部の者には大豆粉塵中のアレルギーであるアルターナリアやクラドスポリウムのRASTを実施したところ、陽性を示す者もあり、今後作業者の健康調査も必要と考えられた。

(4) 農村における各種健康調査

① 農村地域におけるみそ汁塩分調査

入善町農協管内において、農家1,749戸のみそ汁のNa, Cl, Kの分析及びみそ汁に関するアンケート調査を実施した。

その結果、ダシの種類、具の数により塩分濃度が変わることが明かになった。つまり、ダシでは天然ダシの方が、具は多いほうが塩分濃度が低かった。今後の「減塩」運動においては、単にみそ汁の摂取杯数を少なくするだけでなく、みそ汁内容についても指導する必要があることが明かになった。なお、農家と非農家の塩分濃度には差が認められなかった。

② 健康カレンダーによる便通調べ

農村地域における健康づくりを目的として、高岡市農協太田支所管内において、約50戸、230人を対象に1カ月間毎日家族の排便の有無について健康カレンダーにシールを貼ることにより調査した。その結果、女性並びに、低年齢の者に便秘傾向がつかかった。さらに、家族単位で便通状況を比較すると、便秘家秘は、家族全体が便秘傾向にあり、快便家族は家族全体が快便傾向にあった。

今後、家族の食生活習慣、特に農村でも少なくなっているといわれる野菜等繊維質の摂取についても検討し、健康な家族づくりに努力する必要があると考えられた。

③ 農村住民の歩行量の調査

今日の農作業は機械化され、過去に比較して運動量が極めて少なくなっていると考えられる。運動不足は、体力の低下、骨塩代謝の異常をもたらし、骨粗鬆症の原因ともなる。

今回、高岡市太田地区の幼児、学童、大人の歩行量を万歩計で調査したところ、幼児、学童は一日15,000歩余り歩いているにもかかわらず、大人の歩行量は約半分程度であった。ただし、専業農家の歩行量は、極めて多く、過労を伴う運動量であった。また、幼児の1日平均歩行量と土踏まずの面積比率は比例しており、幼児期における歩行の重要性が裏付けられた。現在農村環境は、過去のごとく山あり川ありではなく、自然とふれる機会が極めて少なくなっており、次代を担う子供の健康な身体形成にとって、豊かな農村の自然環境を守ることが極めて重要であると考えられた。

(5) **富山県における空中花粉調査**

県内の農協等の協力を得て、春先の空中花粉の飛散状況調査を7ヶ所で実施した。これまで、富山県においては広域的な空中花粉の基礎資料がなく、本調査により、次第に県内の空中花粉の飛散状況が明かになりつつあり、今後花粉情報の提供、また、農村における花粉症等のアレルギー疾患の予防にも役立つと考えられる。

(6) **食生活と検診結果の関係について**

検診の間診において、多くの検診機関で食事内容の調査が実施されている。今回、富山県厚生連で実施している巡回ミニドック検診における食事内容と血液検査の関係について約3,500人について調査した。その結果、多くの項目で従来考えられていたような関係は見出されず、間診内容のさらに十分な検討が必要と考えられた。

(7) **農村検診センターにおける検診結果と、今後の農村における保健活動の課題**

農村検診センターにおける約5,000人の受診者の検診結果の分析を通じ、今後の農村における健康管理の課題について検討した。

III. 各種研究集会参加・交流並びに開催

(1) **学会等への参加**

第38回日本農村医学会

- ・開催日時 平成元年10月9・10日
- ・開催場所 名古屋市
- ・会員発表 8題

(2) **第7回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会**

- ・開催場所 平成2年2月3日(土)
- ・開催場所 厚生連高岡病院 地域医療研修室(1)
- ・会員発表 9題、特別報告1題(参加者約70名)

IV. 会誌第21巻の発刊

Ⅲ. 主な行事 (平成元年4月1日～平成2年3月31日)

年. 月. 日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
1. 4. 1	空中花粉定点観測 (1. 2. 20～4/30)	井波町農協, 立山町農協 厚生連看護専門学校, 厚生連滑川病院, 藤沢薬品, 黒部農協 の各屋上
4. 21	昭和63年度第3回理事会	厚生連会議室
5. 26	昭和63年度第4回理事会	厚生連会議室
6. 3	第20回総会	富山県農協会館
6. 8	山村住民の耳鼻咽喉科検診 (6/8, 22, 7/6)	利賀村
6. 26	みそ汁塩分調査 (6/29, 7/4, 11, 18, 25)	入善町(大浦)
7. 19	農薬散布者調査打合せ	厚生連会議室 (豊田他5名)
8. 4	第11回富山県農村の健康会議	富山県農協会館
	平成元年度第1回理事会	厚生連会議室
8. 14～21	農薬散布者健康調査等	入善町
10. 12～13	第38回日本農村医学会	名古屋市(発表演題8)
10. 31	大豆脱穀粉塵調査	高岡
11. 7	第30回農民の健康会議	東京
11. 16～17	農業機械安全性研究班会議	大津(大浦)
12. 11	平成元年度第2回理事会	厚生連会議室
2. 1.	平成元年度農薬中毒実態調査 平成元年度農業災害事故調査	
1. 20	平成元年度第3回理事会	厚生連会議室
2. 3	第7回富山県医学研究及び健康管理活動 発表集会	厚生連高岡病院 (約70名参加)
3. 4	「健康を考える」つどい	高岡市農協太田支所

平成2年度事業計画

I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明かるく健康な村づくりに寄与する。

II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
 - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
 - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
 - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
 - ・農薬中毒の実態調査
 - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
 - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の成人病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
 - ・農村における高齢者に関する調査研究
 - ・社会変動による農業従事者の健康に及ぼす影響についての調査研究
 - ・都市近郊農村における社会医学的研究
 - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
 - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

III. 主な事業計画

I. 主な調査研究

(1) 農業災害に関する調査研究

- ①富山県における農業機械災害事故調査
- ②富山県における農業機械以外の農業災害事故調査
- ③農業機械災害事故のケーススタディ

(2) 農薬中毒に関する調査研究

- ① 富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解析
- ② 農薬散布者の健康調査
 - ・ 農薬散布直前後の健康調査並びに尿中代謝物の検討
 - ・ 農薬の慢性生体影響に関する調査研究
- ③ 農薬取扱い者の農薬に対する意識に関する調査研究

(3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究

- ① 農村地区における花粉症に関する調査研究
 - ・ 富山県における空中花粉の飛散状況調査（井波他6カ所）
- ② 山村住民のアレルギー疾患に関する調査研究（於：利賀村）

(4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究

- ① 各種農作業姿勢と健康障害に関する調査研究
- ② 農作業姿勢からくる健康障害の改善方策に関する調査研究
- ③ 大豆脱穀粉塵と健康障害に関する調査研究

(5) 農山村における騒音による聴力障害等に関する調査研究

- ① 農業機械の騒音分析
- ② 農山村住民の聴力損失に関する調査研究

(6) 農村における環境汚染と健康障害に関する調査

(7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究

- ① 食生活と健康に関する調査研究
- ② 農村生活の変化と健康障害に関する調査研究

(8) その他、農村における各種保健調査、健康調査の実施

- ① 肥満、アルコール、高齢者問題、肝疾患等各専門委員会に係わる調査研究
- ② 農村地域における健康管理に関する調査研究
- ③ 農村における成人病に関する調査研究
- ④ その他

II. 各種研究集会参加・交流並びに開催

(1) 学会等への参加

- ① 第39回日本農村医学会（平成2年10月、郡山市）
- ② 国立台湾大学との学術交流並びに農村医療視察

(2) 第8回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会の開催

（平成3年2月、厚生連高岡病院）

(3) 各種農作業従事者との交流

III. 会誌等の印刷物の発刊

- ① 富山県農村医学研究会誌第22巻の発刊
- ② その他

IV. その他目的達成に必要な事業

平成2年度収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
会費収入	253,000	
会 費	253,000	253人×1,000円
助成金	1,800,000	
助 成 金	1,800,000	富山県より
特別負担金	4,680,000	
特 別 負 担 金	3,480,000	4連×870,000円
調査研究協力費	1,200,000	厚生連より繰入
受託料	100,000	
受 託 料	100,000	県より農機災害調査委託費
雑収入	7,390	
雑 収 入	7,390	利息等
前期繰越金	409,117	
収 入 計	7,249,507	

支出の部

項 目	予 算 額	備 考
会議費	550,000	
総 会 費	150,000	
役員会費	400,000	
事業費	6,180,000	
研究調査費	3,600,000	各種調査研究費
専門委員会費	50,000	〃 打合せ等
研究集会費	730,000	研究集会開催・参加費等
会誌発行費	1,300,000	第22巻発行費
編集委員会費	50,000	
通信費	200,000	
消耗費	150,000	
備品・什器	100,000	
旅費交通費	230,000	
旅 費 交 通 費	230,000	
事務費	240,000	
事 務 費	240,000	20,000円×12ヶ月
雑費	20,000	
雑 費	20,000	
子備費	29,507	
子 備 費	29,507	
支 出 計	7,249,507	

役員・顧問名簿

平成2年6月9日

理事	役	職
豊田文一	金沢大学名誉教授	
吉松勇	県医務課課長	
富田利次	県普及指導課課長	
齋田道男	県公衆衛生課課長	
中田慶子	県増進センター参与	
倉本安隆	保健所長会会長・富山保健所所長	
越山健二	全国国保診療施設協議会顧問	
石田礼二	富山市民病院院長	
舘野政也	県立中央病院副院長	
寺中正昭	城端厚生病院院長	
熊谷武夫	高岡市民病院参事皮膚科部長（兼高岡市保健センター所長）	
黒崎正夫	富山県医師会学術担当理事	
中藤康俊	富山大学教授	
長谷田祐作	丸の内病院院長	
渡辺正男	黒部温泉病院院長	
西能正一郎	西能病院院長	
北川鉄人	北川クリニック院長	
龍沢俊彦	厚生連高岡病院院長	
小川忠邦	厚生連滑川病院院長	
川東正範	厚生連高岡病院健康管理科部長	
八木信一	富山県農協中央会専務理事	
前田正稔	富山県農協青年組織協議会委員長	
竹部喜代子	富山県農協婦人組織協議会会長	
跡治順子	経済連生活総合課課長補佐	
長田栄子	富山県生活指導員協議会会長	
監事	役	職
大沢汎	厚生連高岡病院副院長	
林久雄	高岡市農林部長	
顧問	役	職
中沖豊	富山県知事	
正橋正一	富山県市長会会長	
	富山県町村会会長	
広瀬友二	富山県医師会会長	
織田肇	富山県厚生部長	
広瀬弘生	富山県農業水産部長	
松井信勝	富山県農協中央会会長	
戸谷徳一	富山県信連会長	
大角秀尚	富山県経済連会長	
吉田與治	富山県厚生連会長	
江西甚昇	富山県共済連会長	

※町村会会長は、6月9日の町村会総会により改選されるので、改選後町村会会長をお願いしたい。

投 稿 規 定

- 募 集 原 稿** 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。
- 投 稿 の 資 格** 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。
- 原 稿 の 送 り 先** 富山県農村医学研究会事務局宛（富山市新総曲輪2番21号富山県厚生連内）
投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

論文原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま(Pasteur, Prostigmin等)とし、動植物名は日本名の次に学名(ローマ字Mocacusrlesus, 山椒藻Salvinabatah等)を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートルm, センチメートルcm, グラムg, キログラムkg等。
3. コンマ(,) ピリオド(.) コロン(:) ゴジックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。
(図表は、特殊なものを除いては、出来あがり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。)
図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記(末記)して下さい。

- 無 料 掲 載** 原稿用紙20枚(刷上がり5頁)までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。
- 有 料 掲 載** 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

文 献

1. 雑誌の場合 著者名、標題名、雑誌名(雑誌指定の略号)、巻数(号数)、頁一頁、発行年月(昭和52.5のごとく。)
2. 単行本の場合 著者名: 標題名、発行所、発行地、発行年月(必要ならば引用の箇所の頁を最後に)

- 印 刷** 印刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

編 集 後 記

3月15日、敬愛する豊田文一先生が亡くなられた。生前、先生は日本農村医学会の発表演題について、「もっとフィールドと結びついたもの、農村や農家の人と結びついた研究を」と苦言を呈しておられた。最近の農村医学会の発表の多くが農村などフィールドと遊離し、農村医学の基本であるヒューマニズムや実学精神の希薄化を嘆いてのことであった。

この点、豊田先生はこの富山県農村医学研究会誌を常に実際のフィールドと結びついたものにするため、農村やフィールドでの新しい問題に取り組んだ研究について、未だ未完成でも積極的に取り上げ、掲載するよう会員を鼓舞してこられた。その結果、本誌は全国の他の農村医学会の地方会雑誌に比較して、農村などフィールドと結びついた報告が極めて多く、異彩を放っていると自負している。本誌もその例外ではない。

この会誌で報告されている研究成果が、米の輸入自由化や高齢化で揺れる今日の農村の保健、医療に少しでも役立てば幸いです。

(E. O)

編 集 委 員 越山健二、長谷田祐作、渡辺正男、北川鉄人

富山県農村医学研究会誌 第22巻平成3年3月25日印刷・3月31日発行

富山市新総曲輪2番21号・富山県厚生連内 電話 富山(0764)45-2307

編集、発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 秋元敏夫

印刷所 株式会社チューエツ 富山市上赤江町 電話(0764)32-4171
